

## 入 選

「私にいまできること」

土浦日本大学中等教育学校

二年 稲 葉 なのは

水の作文の課題が出されるまで、私は水に対して深く考えたことはありませんでした。水は当たり前のように存在し、当たり前のように日々使っていたからです。改めて水のことを問われて私が水について調べてみたいと思ったことは二つあります。まず一つ目は、当たり前のように日々使っている私たちの水はどこから来ているのか。です。二つ目は、どの季節が一番水の使用量が多いのか。です。

私の住んでいる守谷市の水道が、近くに水源がないことを理由に茨城県が購入していることを初めて知りました。守谷市の水源は利根川で、取手市内にある茨城県企業局利根川浄水場で取水し浄水したものを受水していることがわかりました。水のことを

調べていく中でユニセフのホームページが目に残りました。大きな字で、「どんなに汚くてもこの水を飲むしかない。」と書いてあります。その字とともに映っていたのは、黒人の男の子が泥で濁った水を飲んでる姿でした。私たちと同じくらいの子どもたちが水を汲むのに毎日遠い道のりを歩き続けています。学校に行く時間もなく友達と遊ぶ時間もありません。ようやく、手にした水も泥や細菌、動物の糞尿がまじった危険な水です。安全な水を飲めない人が世界には六億六千三百万人もいるそうです。このユニセフのホームページはとても衝撃的でした。私が今まで当たり前前にそこにあり、当たり前前に使っていた水が当たり前前に使えない人たちがこんなにいるなんて。水も資源で限りがあるということは知っていました。が改めて大切に使わなければいけないと感じました。

そのために自分ができる節水方法を考えてみました。トイレの水を流す時、私は無意識で「大」レバーで流していました。これからは流す時「大」「小」をしつかりと使い分ける事を意識していき

いです。また手を洗う時や顔を洗う時、蛇口のひねりを小さくすることも節水につながると考えました。歯磨きする時も今までは水を流したまま、手で水をすくってうがいをしていましたが、コップに水を入れてからうがいをしようと思います。これらの事は私一人だけが意識するのではなく家族にも伝え家族で取り組めたらさらに節水できると思いました。

次に、日本の季節ごとの水の使用量についてです。私の実体験からすると、夏はプールや飲み水として利用する事が多かったり、生活用水として利用するから夏は水の使用量が多いと感じました。インターネットで季節別の水道代の平均額を調べてみました。一月から三月は五千百四十八円。四月から六月は五千二百八十五円。七月から九月は五千百七十円。十月から十二月は五千四百十六円でした。調べて感じた事は一年間を通してそこまで使用量に大きな差はないことが分かりました。またこのデータを見て、意外にも夏よりも冬のほうが水道代が高いことにびっくりしました。母にその話をすると、夏は暑いから浴槽に入らないでシャワーで済ませられる日が多

いが、冬は寒いから毎日浴槽にお湯を張らなければならぬからどうしても水道代がかかるよね。という話を聞きました。そして、冬は年末大掃除をするので水を使う機会が増える話も聞きました。初めは、軽い気持ちでどの季節が一番水を使うか気になりましたが、どの季節に於いても節水を心がけることに変わりありません。

最初にも書きましたが、当たり前に日々使っている水について何の疑問も持たずに今まで使っていたけ使っていました。水について調べていくうちに資源には限りがあること。安全な水を飲めず毎日多くの人が亡くなっている国があることを日々念頭に置き、まず自分ができる節水を始めていきたいです。